

第106回 地区内中小企業景気動向調査結果

(平成27年4～6月期実績・平成27年7～9月期見通し)

1. 調査時点 平成27年6月1日～6月5日
2. 調査対象企業数 173社中回答 173社 回答率 100.0%

区分	調査対象企業の範囲	調査対象企業数	有効回答数	有効回答率 (%)
製造業	従業員 300人以下	39	39	100.0
建設業	〃	42	42	100.0
卸売業	従業員 100人以下	7	7	100.0
小売業	従業員 50人以下	54	54	100.0
サービス業	〃	31	31	100.0
合計		173	173	100.0

3. 調査方法

当金庫調査員の面接聞き取りによる感触調査です。

調査対象企業は、当金庫の営業区域（新冠町～広尾町）内に所在する企業とし、その抽出は、各業種・規模等の基本属性の構成が、調査対象母集団の属性に見合う一定基準に基づいて有意抽出で行っています。

4. 分析方法

各質問項目で「増加（上昇）」したと回答した企業の全体に占める構成比と、「減少（下降）」したと回答した企業の全体に占める構成比との差（判断指数・D I 値）を中心にして分析を行っています。

なお、同時に信金中央金庫 地域・中小企業研究所が行う、全国調査結果と地区内との比較分析を行っています。

5. お問い合わせ先

日高信用金庫 業務部地域貢献課 (Tel. 0146-22-4100、内線 621)
〒057-0013 浦河郡浦河町大通2丁目31番地2

全業種総合 173 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 概 況

今期（平成 27 年 4～6 月期）の業況判断 D. I. は△29.5 と、前期（平成 27 年 1～3 月期）比 4.7 ポイント上昇、前年（△35.3）比では 5.8 ポイント改善するも、前期（平成 27 年 1～3 月期）調査時点での今期（平成 27 年 4～6 月期）見通し（△26.0）を 3.5 ポイント下回る水準となった。業種別には、製造△17.9（前期 30.8）、建設△16.6（同△11.9）、卸売△71.5（同△85.8）、小売△37.0（同△38.9）、サービス業△38.7（同△48.4）となった。

売上額判断 D. I. △15.0 は前期比 30.7 ポイント、収益判断 D. I. △18.0 は同比 25.4 ポイント、ともに上昇した。

来期（平成 27 年 7～9 月期）の予想業況判断 D. I. は△24.7 と、今期実績比 4.8 ポイントの上昇見通しとなった。業種別にみると、製造△10.3、建設△14.2、卸売△71.4、小売△35.1、サービス△29.0 と来期を見通している。

【業種別天気図】

業種	時期	地 区 内				北 海 道	全 国
	26 年 10 月～12 月	27 年 1 月～3 月	27 年 4 月～6 月	27 年 7 月～9 月見通し	当 期	当 期	
総 合							
製 造 業							
建 設 業							
卸 売 業							
小 売 業							
サ ー ビ ス 業							

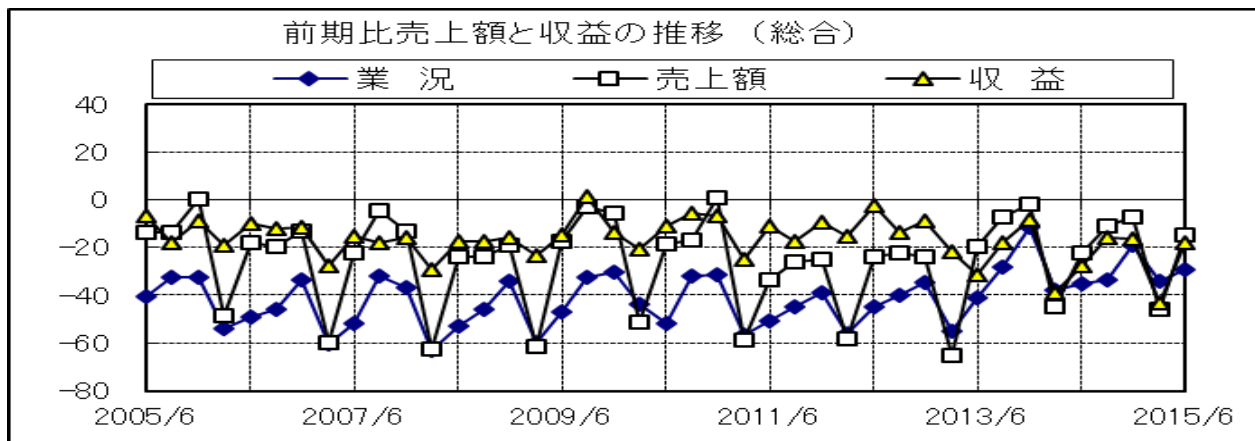
好調 ← → 低調

この天気図は、景気指標を総合判断して作成したものです。

□ 景 況

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
業 況	-19.1	-34.2	-29.5	-24.7
売上額	-7.5	-45.7	-15.0	-2.9
収 益	-16.2	-43.4	-18.0	-12.8

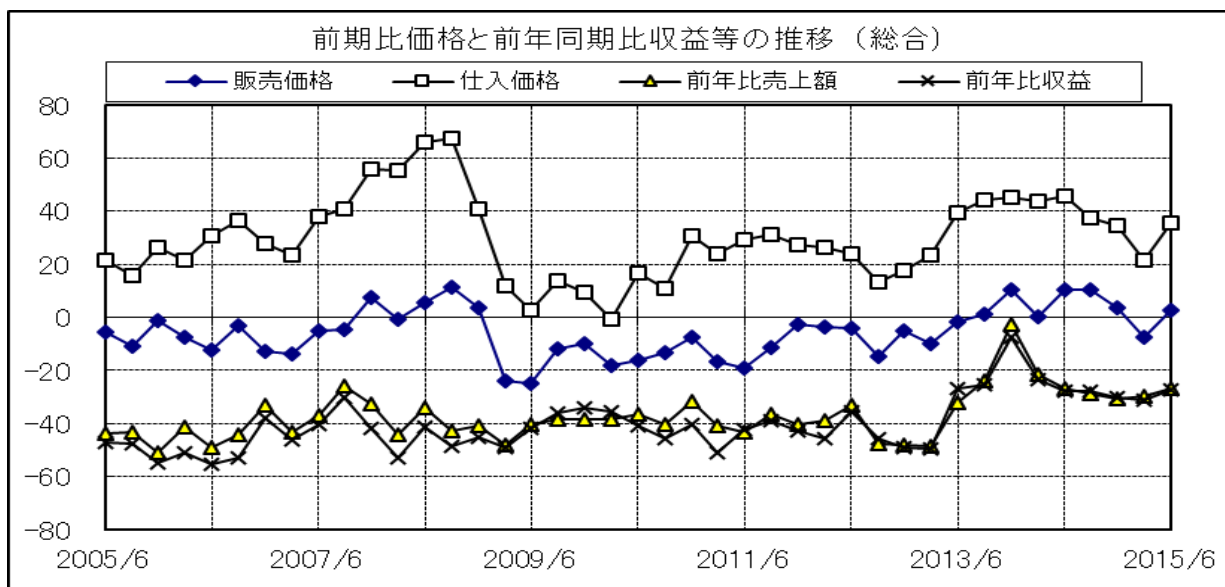
全業種総合の今期の業況判断 D. I. は $\Delta 29.5$ と、前期比 4.7 ポイント上昇した。地区別の D. I. は、高い順に、広尾、様似、三石、浦河、えりも、静内、となった。業況判断 D. I. は前年 ($\Delta 35.3$) 比では 5.8 ポイント上昇した。売上額判断 D. I. $\Delta 15.0$ は前期比 30.7 ポイント上昇、収益判断 D. I. $\Delta 18.0$ は同比 25.4 ポイント上昇した。



□ 価格面、前年同期に比した動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
販売価格	3.5	-7.5	2.8	3.5
仕入価格	34.8	21.4	35.8	26.5

販売価格判断 D. I. は 2.8 と、前期比 10.3 ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は 35.8 と、前期比 14.4 ポイント上昇した。業種別にみると販売価格は、建設業がほぼ横ばいとなったのを除き全業種で上昇した。一方、仕入価格はサービス業がほぼ横ばいとなったのを除き全業種で上昇した。販売価格は前年 (10.3) 比で 7.5 ポイント、仕入価格は前年 (45.7) 比で 9.9 ポイントそれぞれ下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
残業時間	-3.4	-13.8	-8.2	-9.3
人手状況	-19.1	-6.3	-8.1	-19.1

残業時間判断 D. I. は $\Delta 8.2$ と、前期比 5.6 ポイント上昇し、残業時間が減少したとする企業割合は減少した。人手過不足判断 D. I. は $\Delta 8.1$ と、前期比 1.8 ポイント下降し、人手不足感を強めた。

□ 設備投資の動き

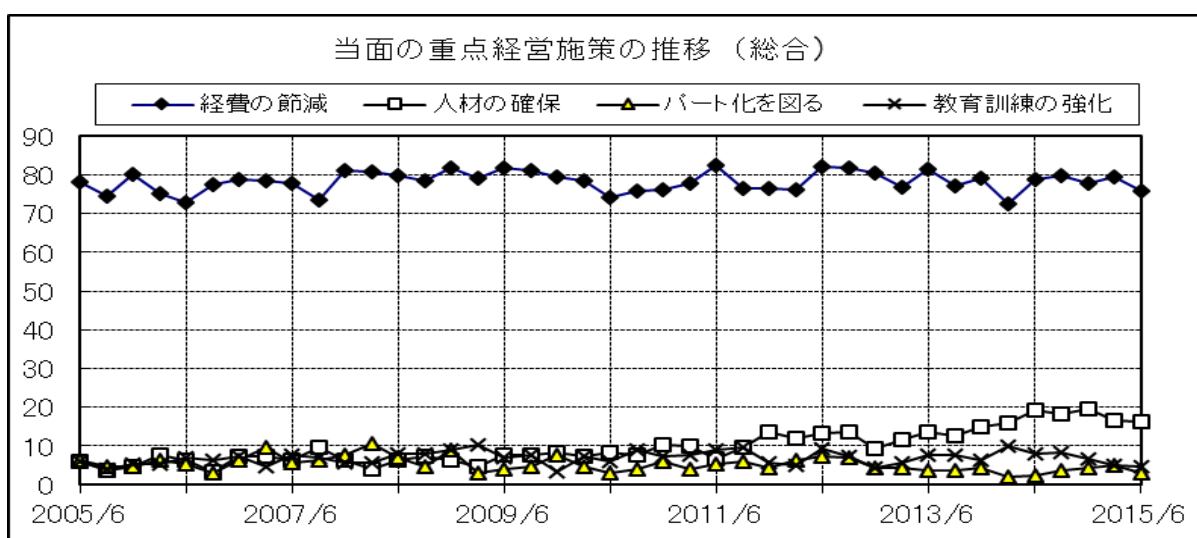
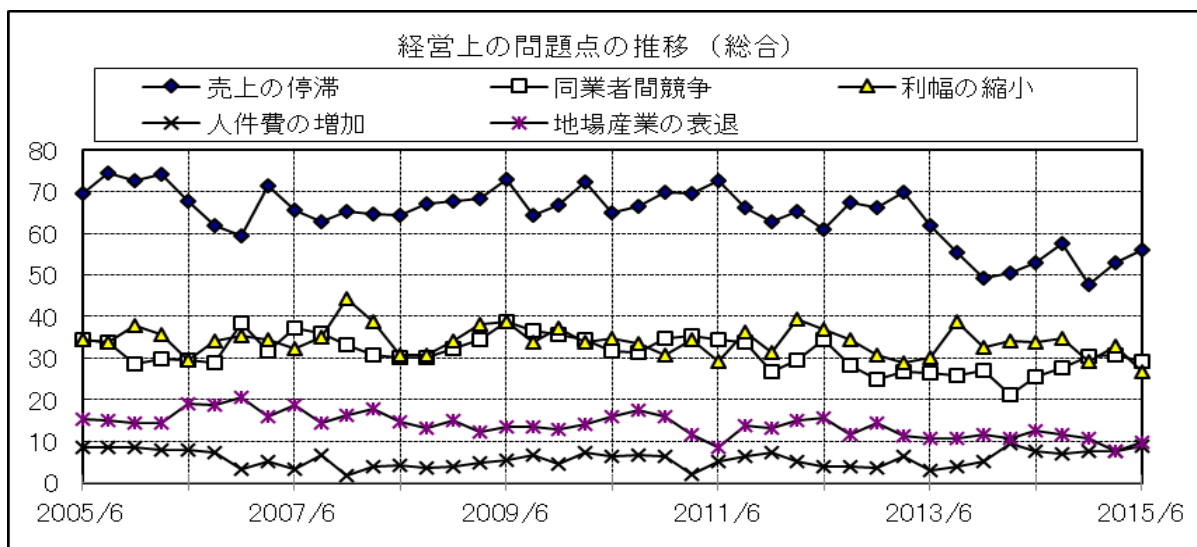
設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 8.7$ と、前期比0.7ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は13.9%と、前期比4.0ポイント下降、24社の実施となった。来期の設備投資は、23社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞減少」が56.1%で最も多く、「同業者との競争」29.2%、「利幅の縮小」26.9%、「人手不足」11.1%と続いた。

重点経営施策では、「諸経費の節減」が75.8%で突出している。次に「人材の確保」16.4%、「教育訓練を強化」4.8%、「パート化を図る」が3.0%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 24.7$ と、今期比4.8ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は $\Delta 2.9$ と、今期比12.1ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は $\Delta 12.8$ と、今期比5.2ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は3.5と、今期比0.7ポイントの上昇を見通している。

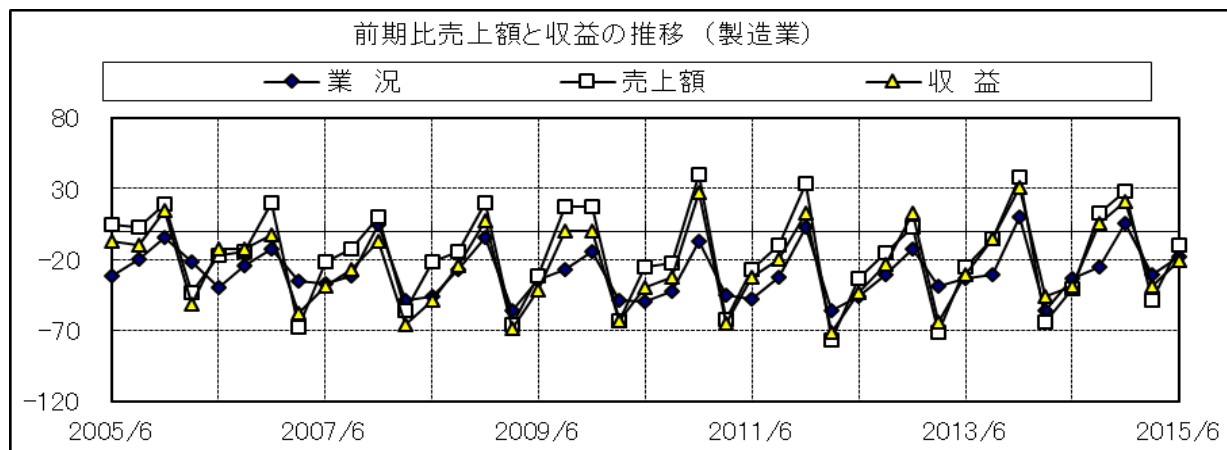
予想仕入価格判断D. I. は26.5と、今期比9.3ポイントの下降を見通している。

製 造 業 39 企 業 (回 答 率 100.0%) の 調 査 結 果 で す

□ 景 況

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
業 況	5.1	-30.8	-17.9	-10.3
売上額	28.2	-48.7	-10.3	25.7
収 益	20.6	-38.5	-20.6	7.7

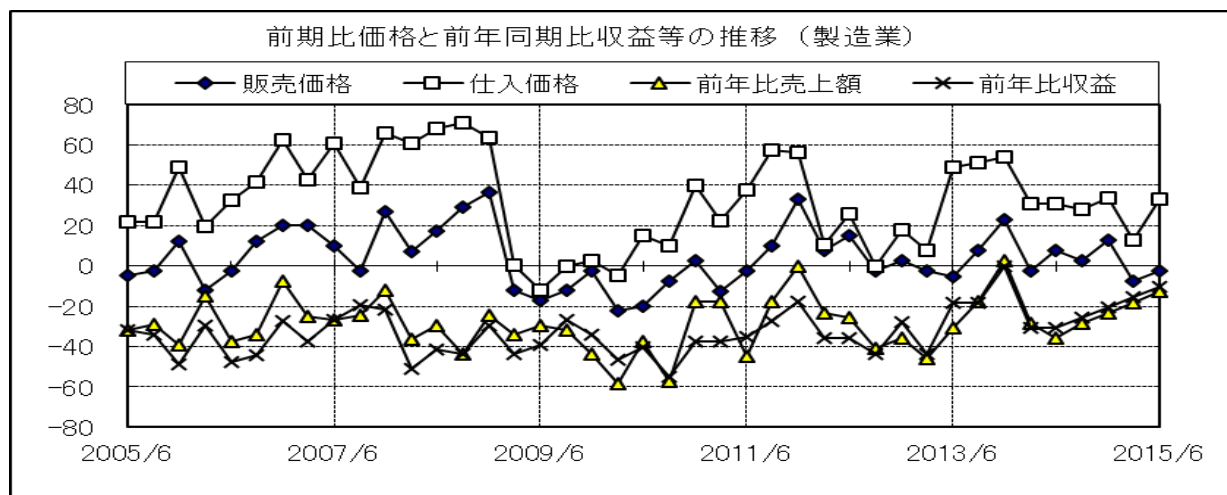
今期の業況判断D. I. は $\Delta 17.9$ 、前期比12.9ポイント上昇した。地区別のD. I. は、高い順に、浦河・えりもが同値で並び、次に静内、様似、広尾、三石の順となった。前年($\Delta 33.3$)比では15.4ポイント上昇した。売上額判断D. I. は $\Delta 10.3$ で前期比38.4ポイント上昇、収益判断D. I. も $\Delta 20.6$ と同比17.9ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
販売価格	12.7	-7.7	-2.5	-5.2
仕入価格	33.4	12.8	33.3	15.3

販売価格判断D. I. は $\Delta 2.5$ と、前期比5.2ポイント上昇するも前年(7.7)比では10.2ポイントの下降となった。仕入価格判断D. I. は33.3と、前期比20.5ポイント、前年(30.7)比でも2.6ポイント上昇した。業種別に見ると、食品は販売価格・仕入価格ともに上昇した。木材は販売価格が横ばいで仕入価格は下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
残業時間	12.9	-20.6	-0.1	-5.1
人手状況	-20.5	5.1	-5.1	-20.5

残業時間判断D. I. は $\Delta 0.1$ と、前期比20.5ポイント上昇し、残業時間が減少したとする企業割合が減少した。

人手過不足判断D. I. は $\Delta 5.1$ と、プラス値からマイナス値となり前期比10.2ポイント下降、人手不足「超」となった。

□ 設備投資の動き

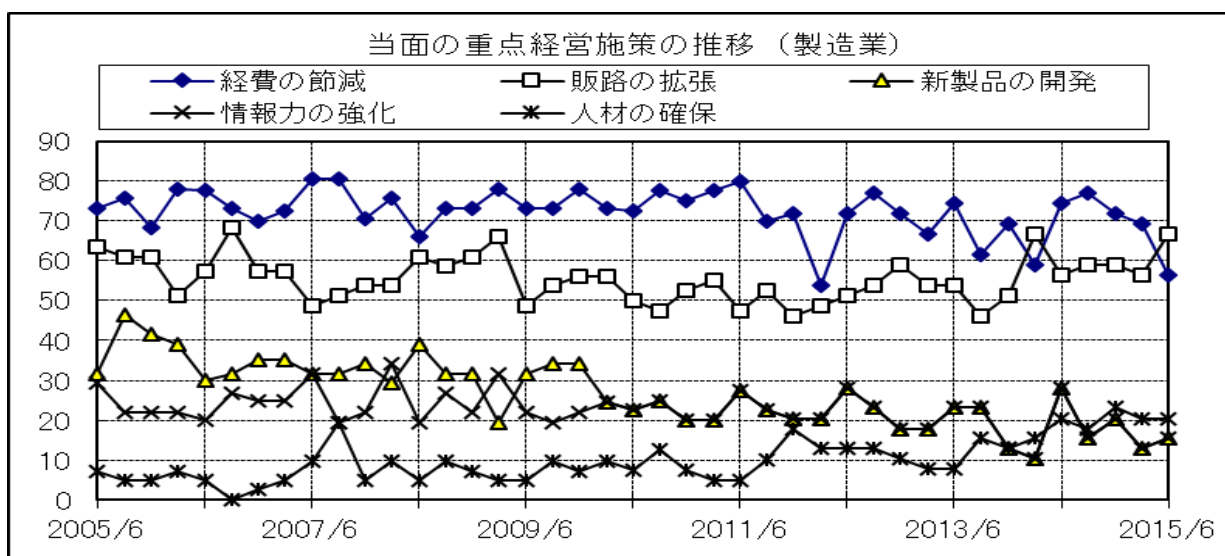
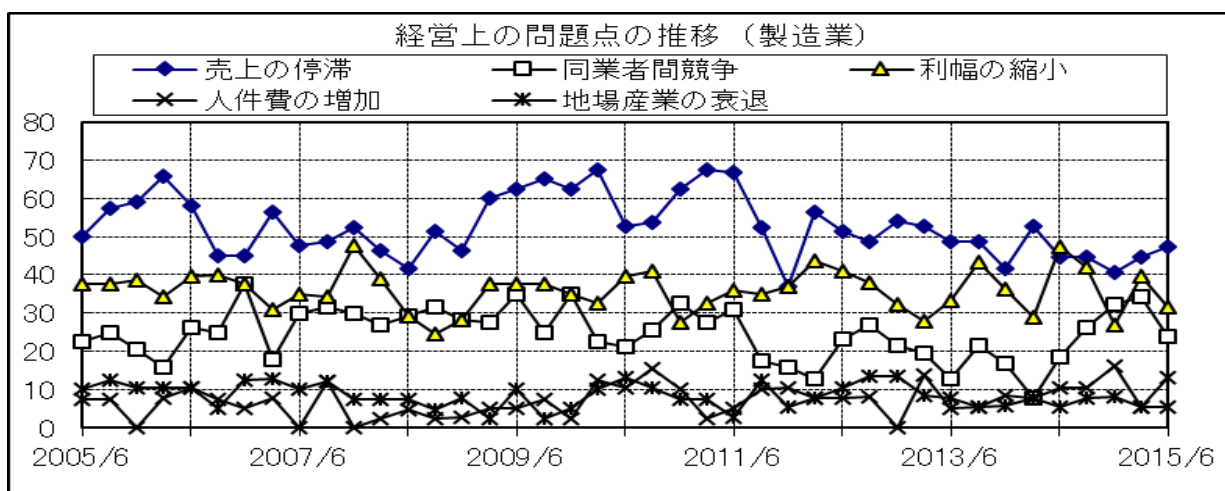
設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 2.6$ と、前期比5.2ポイント上昇した。設備投資実施企業割合は17.9と、前期比10.3ポイント下降。前期の11社に対し7社の実施となった。

来期の設備投資は、6社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」・「原材料高」をトップに挙げそれぞれ47.4%、「利幅の縮小」31.6%、「同業者との競合」23.7%、「工場機械の老朽化」18.4%と続いた。

重点経営施策では、「販路を広げる」をトップに挙げ66.7%、次いで「経費の節約」56.4%、「人材を確保する」が20.5%と続いている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 10.3$ と、今期比7.6ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. 25.7は、今期比36.0ポイントの上昇を見通している。

予想収益D. I. 7.7は、今期比28.3ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は $\Delta 5.2$ は、今期比2.7ポイントの下降を見通している。

予想仕入価格判断D. I. は15.3と、今期比18.0ポイントの下降を見通している。